

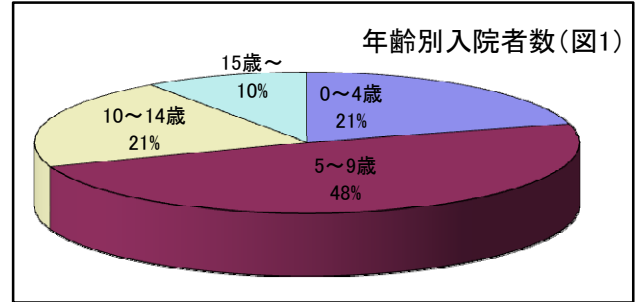
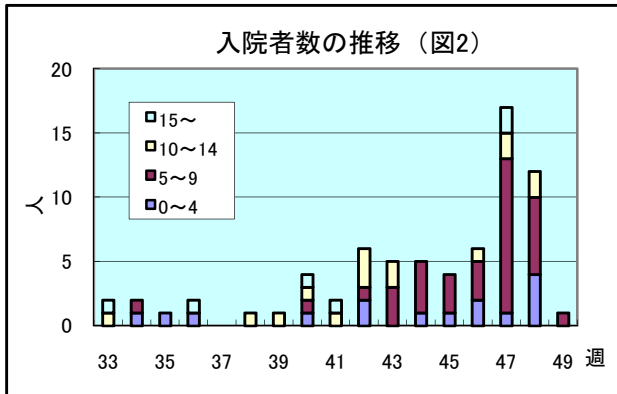
和歌山市 新型インフルエンザによる入院患者の発生動向

新型インフルエンザの入院者数は、初めに報告があった33週(8月第2週)から48週(11月29日)までに合計72名の報告があります(うち4名はPCR検査未実施)。

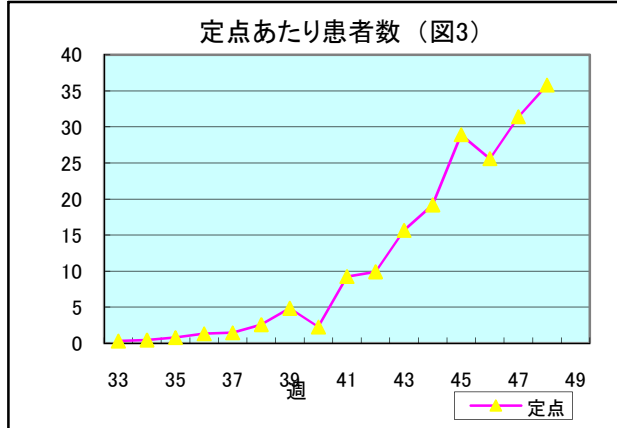
このうち、入院中での人工呼吸器の使用はありません。急性脳症については3名が診断されていますが、全員軽快し、退院されています。

脳症症例1	12歳 男性	意識障害、発熱41℃、肺炎、異常行動
脳症症例2	8歳 男性	意識障害、発熱39.7℃、肺炎、痙攣
脳症症例3	9歳 男性	意識障害、発熱38.7℃

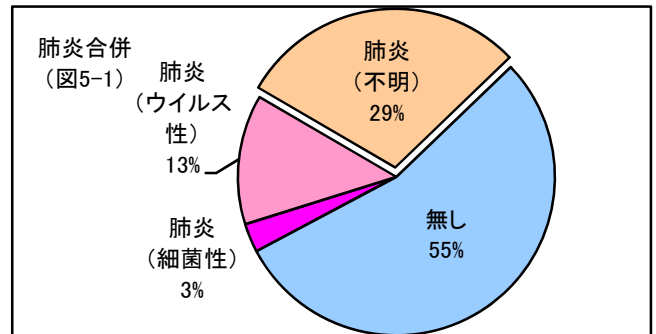
入院者の年齢分布は、5～9歳に最も多く、9割以上が14歳以下の報告となっています。



33週からの発生分布は、図2のとおりです。定点あたりの患者数の推移(図3)と同様の増加が見られます。

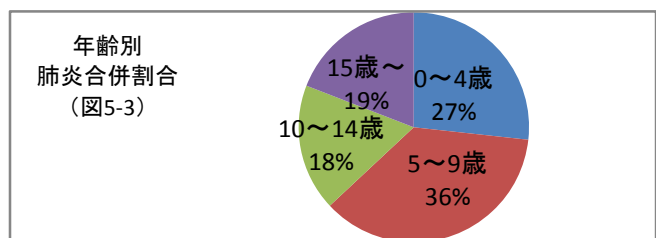
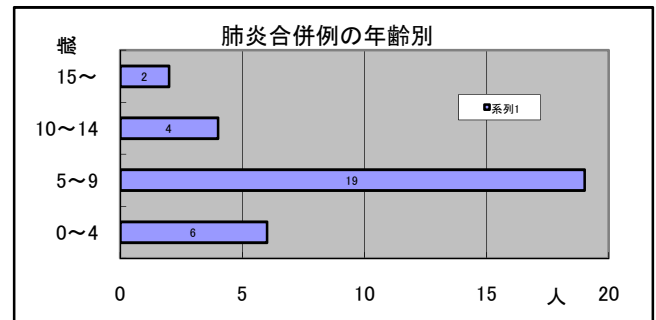
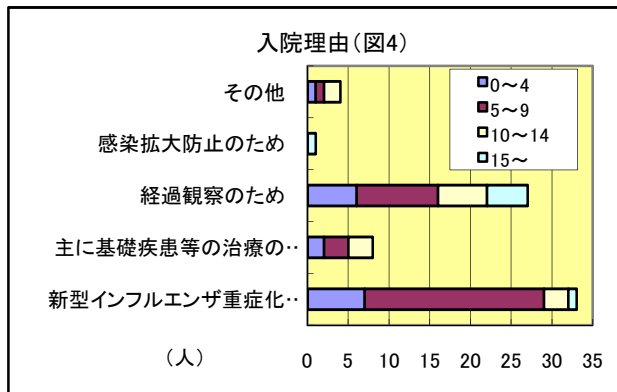


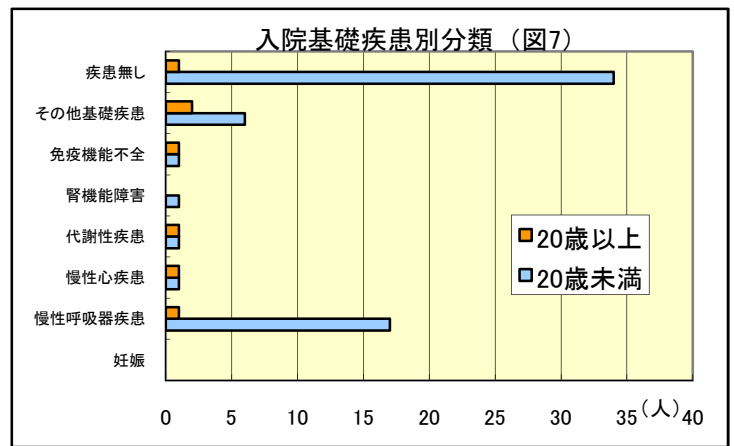
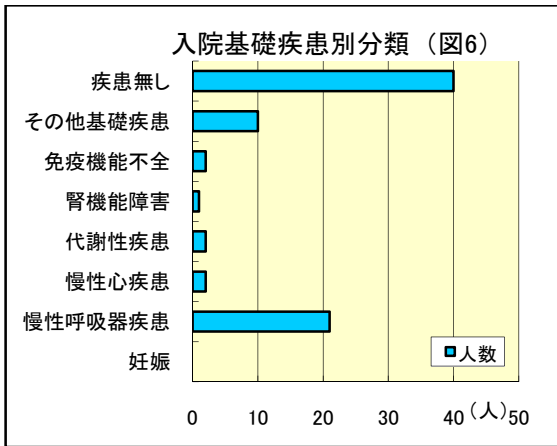
入院患者の45%が肺炎を併発しており呼吸状態の悪化等重症化の原因の一つとなっています(図5)。



入院理由(図4)としては、重症化によるものが多く、肺炎を併発している場合や呼吸状態の悪化が主に見られました。

また、異常行動がみられる場合において経過観察となり入院する場合も多く見られました。

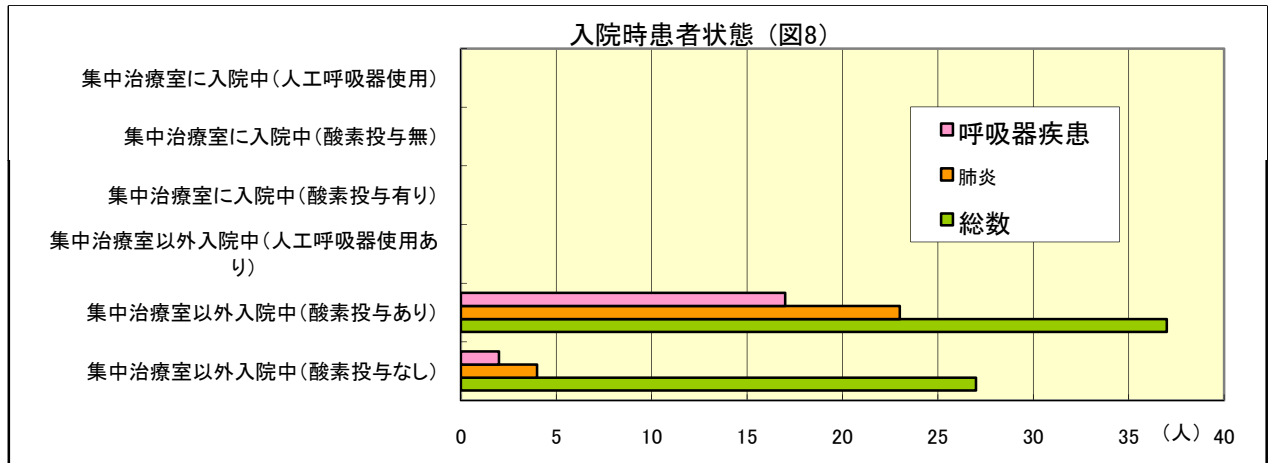




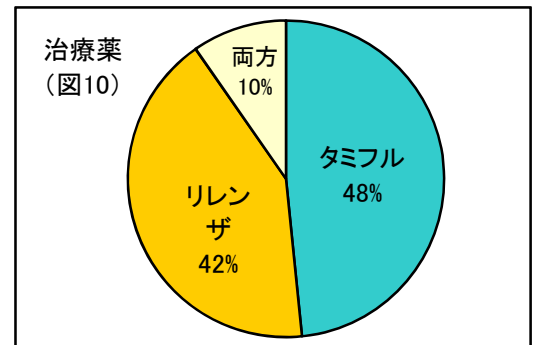
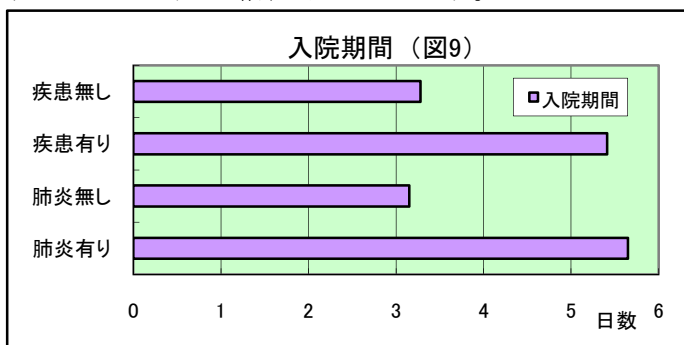
入院患者の基礎疾患については約54%が保有しておらず、基礎疾患を有しない方の入院も少なくないことがわかります。

20歳以上と未満に分けて基礎疾患を分類したところ、20歳以上においては、基礎疾患を有しない者が入院した方の2割程度となっています。慢性呼吸器疾患や糖尿病、慢性心疾患等重症化しやすいとされる基礎疾患を有する方が、入院しています。

入院患者のうち9割が20歳未満であることなど、基礎疾患を有する頻度が低い年代に入院患者が集中していることが、全体として基礎疾患のない方の入院の割合を押し上げている可能性があります。



基礎疾患として、慢性呼吸器疾患を有している方や肺炎を発症している方については、呼吸状態の悪化が見られ、酸素吸入による治療を行う場合が多く見られます(図8)。ただし、集中治療室に入院となった方はおらず、平均約5.5日入院後軽快退院されています。この入院期間は肺炎や疾患のない患者さんに比べ約1.8倍長くなっています。



入院患者への治療薬として、タミフルとリレンザがほぼ同様数使用されています。また、両剤併用処方も1割程度みられました。

今回、11月までの入院報告を集計していますが、12月からも入院者数は同様に推移しています。20歳以上の方の報告も徐々に出てきていますので、今後、基礎疾患を有する方が多い中高年へと感染が拡大したり、抗インフルエンザウイルス薬への耐性化などウイルスの性質が変化したりすることにより、入院者数が増加する可能性もあります。この指標については注意深く観察する予定としています。